

無症候性の浸潤影を呈した *Pasteurella multocida* 肺感染症の 1 例

泉 祐介¹、乙原 雅也²、川本 数真³、松本 奈穂子¹、谷脇 雅也¹、山崎 正弘¹

1 広島赤十字・原爆病院呼吸器科

2 太田川病院内科

3 広島大学大学院 分子内科学（内科学第二）

要旨

症例は 86 歳男性。COPD と前立腺癌、猫の飼育歴があった。画像検査で左下葉に無症候性の浸潤影を認め、陰影が悪化傾向となり気管支鏡検査を施行した。気管支洗浄液の培養検査で *Pasteurella multocida* が検出され、抗菌薬治療を行った。症状はないものの同部位の陰影の悪化と抗菌薬治療を繰り返したが、猫の飼育をやめた後陰影は消退した。ペットの飼育歴と呼吸器系の基礎疾患や免疫能低下がある患者では、*P. multocida* 肺感染症に留意が必要である。また改善後も慎重にフォローする必要がある。

キーワード：

パスツレラ・ムルトシダ 人獣共通感染症 肺感染症

Pasteurella multocida zoonosis pulmonary infection

短縮タイトル：

Pasteurella multocida 肺感染症の 1 例